

# 新潟の文化を訪ねて



2本の大河が日本海に注ぎ込む、その下流に位置する新潟市。川や海からの風を感じることができるまちです。「りゅーとぴあ（新潟市民芸術文化会館）」と「みなとぴあ（新潟市歴史博物館）」は、水の都を体感できるような環境を生かして建っています。今回はこの二つの文化施設を訪問し、りゅーとぴあ支配人の鈴木さんとみなとぴあ館長の甘粕さんにお話をお聞きました。



上ノ正面にパイプオルガンを設置したコンサートホール。その音響の良さは数多くのアーティストから絶賛されています。

左ノコンサートホール舞台裏の壁には、過去出演された方々のサインやメッセージが。



## 七つの庭園に囲まれた三つの専門ホール りゅーとぴあ

「文化の拠点施設に」。りゅーとぴあ（新潟市民芸術文化会館）は、そんな市民の願いから生まれた文化施設。白山公園から信濃川・やすらぎ堤までのあふれるような緑の回廊の中核に位置しています。三つの専門ホールでは音楽や演劇、古典芸能など、さまざまな質の高い鑑賞事業や育成事業が行われ、芸術に接する機会や場を市民に提供しています。また、新たな芸術文化を全国に向け発信する新潟発創造事業も全国的に注目を集め、新潟市の文化向上の確かな礎となっています。



「りゅーとぴあへまずは足を運んでほしい」と話す鈴木支配人も、新潟大学の卒業生。

財団法人新潟市芸術文化振興財団  
りゅーとぴあ支配人

鈴木 栄子 さん

### 新潟に専門ホールを— りゅーとぴあ建設の経緯

昭和50年代末頃、新潟市内には新潟県民会館、音楽文化会館、新潟市公会堂しかなく、市民の皆さんからホール建設の陳情が出ていました。当時は全国的に専門ホールの建設ラッシュの時期。「オーケストラや演劇、古典芸能が開催可能な施設を」というニーズを受け、昭和63年に白山公園とその周辺地区に、公園と文化・スポーツ施設が一体的な機能を持つ施設の構想、いわゆるセントラルパーク構想が打ち出されたのです。

そして、建設資金の積み立てを始め、平成5年に基本設計に着手。平成10年10月に開館しました。「りゅーとぴあ」は、開館の翌年に愛称を公募した際に、柳の都の柳都とユートピアを合わせた言葉ということで選ばれた名前です。

### りゅーとぴあの魅力と実績

りゅーとぴあは、コンサートホール、劇場、能

楽堂という三つの専門ホールに加え、ギャラリーなどを一つの館の中に備えているのが大きな特徴です。そして信濃川、やすらぎ堤、白山公園という、すばらしい景観の中にぴったりマッチしていて、建物の見た目も素晴らしい。「緑の回廊を作りたい」という設計者の大きなコンセプトが、よく活かされた形になっていますね。

三つの専門ホールの機能の高さ、そこで展開している事業のクオリティの高さは全国的にも特筆される点です。このところ、今まで一つ一つ大切に組みこんできた結果が、目に見える評価という形で現れています。例えば、能楽堂という和の様式の中でシェイクスピアの世界を描くシリーズ。その第三弾の「冬物語」はルーマニアで行われたシェイクスピア国際フェスティバルからお招きを受け、現地での公演は大成功を収めました。更に昨年、りゅーとぴあはJAFRAアワード（総務大臣賞）を受賞しました。これは、音楽文化会館時代から行っているジュニア音楽教室の育成、1コインコンサート、日本初の劇場専属

ダンス・カンパニーNoismなどを全国に向けて発信し、りゅーとぴあが地域の拠点となっていることが評価されたものです。

地元の方はもちろん、東京から来られるアーティストや演出家の方々、裏方さんなど、皆さんが「素晴らしい景観はもちろん、施設だけでなく、ここで演じた時に感じる新潟のお客様のあたたかさが自分たちを惹きつける」と言っており、りゅーとぴあをすごく愛してくれています。そして次はもっと良いものをまたりゅーとぴあで演じたいと思っていただける。とても嬉しいです。

### 新大生もどんどん りゅーとぴあの活用を

能楽堂シェイクスピアシリーズには新大生が2人出演していますし、新大の管弦楽団や吹奏楽部、演劇研究部からはりゅーとぴあで定期公演を開催していただいています。また、りゅーとぴあ主催事業の裏方の仕事で新大生に協力いただくケースも増えてきています。研修という形で受け入れさせてい

ただくこともありますし、こちらからボランティアをお願いすることもあります。学生の皆さんから「こういう形でりゅーとぴあに関わりたい」という声をいただくと、新しい取り組みができるかもしれません。りゅーとぴあに関わることによって、学生の皆さんが何かを感じて、身に付けてもらえるような機会を考えていければいいですね。

りゅーとぴあ主催事業の中には学生でも鑑賞しやすいように学生券を設定しているものもありますし、育成・普及系の事業を中心に低価格のものもあります。開館中はいつでもフリーに入れる空間もありますので、まずは、足を運んでみてください。

### りゅーとぴあが これから目指すこと

りゅーとぴあは、2年後には開館10周年を迎えます。今まで、育成・普及・鑑賞・新潟発創造事業として、数々のソフト創りに取り組んできました。これからはさらにそれらを充実させていくことによって、一人でも多くの方



左/りゅーとびあ能楽堂シェイクスピアシリーズ・第三弾「冬物語」ルーマニア公演。

下/りゅーとびあ舞踊部門芸術監督 金森様率いる、りゅーとびあ専属ダンス・カンパニーNoism。



# ryutopia

に夢と感動を与え、それらをお互いに共有していけるシーンを作っていきたいと考えています。

文化というのは、それぞれのまちの魅力の切り口として非常に大きな要素ではないでしょうか。新潟市がこれから政令指定都市となり、シティプロモーションの観点からも、文化は大事なキーワードとなります。そのときに、りゅーとびあがその中心となり、市民に愛されながら、多くの方々との幅広いネットワークを生かして、**新潟の魅力を全国に、世界に発信していきたい**と思っています。

## りゅーとびあ おすすめ公演

### りゅーとびあ能楽堂シェイクスピアシリーズ・第四弾「オセロー」

日時●8/22・8/23・8/25 19:00開演 8/26 14:00開演  
場所●りゅーとびあ能楽堂 料金●全席指定5,000円(学生3,500円)

### 東京交響楽団 第39回新潟定期演奏会

日時●11/19 17:00開演 場所●りゅーとびあコンサートホール  
料金●S席7,000円、A席6,000円、B席5,000円、C席4,000円、D席2,000円《9/1発売》

### Noism06「Triple Vision」

日時●11/10 19:00開演 11/11・11/12 17:00開演  
場所●りゅーとびあ劇場 料金●全席指定5,000円(学生2,500円)《9/17発売》

## 新潟の文化を訪ねて DATA

### りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館

〒951-8132 新潟市一番堀通町3-2  
URL <http://www.ryutopia.or.jp/>

●館内案内ダイヤル  
TEL 025-224-5622 (11:00~19:00)

●チケット専用ダイヤル  
TEL 025-224-5521 (11:00~19:00)

●開館時間  
9:00~22:00

●休館日  
毎月第2・第4月曜日、年末年始(12/29~1/3)

●交通アクセス  
JR新潟駅万代口からバスで15~20分  
「昭和大橋・古町経由湊町・入船町」行で「白山公園前」バス停下車徒歩3分  
「中央循環川岸町経由新潟県庁」行で「陸上競技場前」バス停下車徒歩5分  
「信濃町」行で「市役所前」バス停下車徒歩7分

## りゅーとびあで活躍する卒業生からのメッセージ

### 人とのつながりが大きな魅力

現在はりゅーとびあが主催するソフト事業のPRが主な仕事です。以前は施設利用の窓口の仕事に携わっていました。財団への就職を希望したのは、新潟で音楽などに関わる仕事に就きたかったことが大きな理由でしたが、それに限らずいろいろな方々とコミュニケーションを積み重ねることが良い結果を生み、それがまた次へつながることがこの仕事の大きな魅力だと感じています。これからも人とのつながりを大切にして、りゅーとびあを利用する学生や市民の方々に、いま以上に愛着をもっていただけるような仕事ができれば嬉しいです。



財団法人新潟市芸術文化振興財団 事業課 広報営業担当

西谷 幸敏 さん

人文学部1996年卒

## 新潟の文化を訪ねて



## 水の都にいがたの歴史と文化に出会う みなとびあ

「新潟の歴史や文化を体感し、楽しむことのできる場を」という構想のもと、平成16年3月に開館したみなとびあ(新潟市歴史博物館)。旧新潟税関庁舎(国指定重要文化財)、移築・復原された旧第四銀行住吉町支店、2代目市庁舎の外観をもとにデザインされた博物館本館は、往時の新潟市をしのばせます。みなとびあは、新潟市の歴史を軸として人々が触れ合える、新しい憩いの空間です。



「みなとびあを見学することによって、自分が住んでいる地域を知り、誇りに思ってもらいたい」と語る甘粕館長。

財団法人新潟市芸術文化振興財団 みなとびあ館長

甘粕 健 さん

## 新潟の歴史と文化に触れる場に—— みなとびあ創立の経緯

みなとびあの要ともいえる旧新潟税関庁舎は、明治2年に新潟運上所として完成しました。開港5港の税関庁舎として残存する日本唯一の建物です。新潟市では早くからこの建物を利用した郷土資料館が活動し市民の皆さんに親しまれてきましたが、近世の新潟湊の歴史が中心でした。新潟市の歴史には、豊かな湊町とそれを支えた背後の低湿地の農村という二つのとてもユニークな歩みがありました。そのため、古代から現代までの新潟市の歴史を研究し、それをトータルで紹介して未来を展望するような学習の場が求められていたのです。

みなとびあは三つの特徴的な建物を中心になっています。旧税関庁舎(国の重要文化財)を敷地内に取り込み、大正・昭和の繁栄を象徴する第四銀行住吉町支店を正確な形で移築・復原。さらに明治44年に建



奈良・平安時代にサケ漁をしていた集落を模型で再現。



信濃川と阿賀野川の流域模型。



初代萬代橋と信濃川の150分の1模型。  
初代萬代橋は約782mの長さでした。



白山神社の拝殿にかかる大船給馬の複製。  
新潟湊での米の積み込みの様子が描かれています。

# minatopia

みなとぴあで活躍する  
卒業生からのメッセージ

## 学んだ民俗学を生かして 新潟の生活文化の 歴史を伝えたい

大学時代は昔の生活文化について学んでおり、研究会などの活動を通じて郷土資料館にも通っていました。それから歴史博物館を建設する部署に採用され、今は博物館の学芸員として、資料の収集、整理、保管をする仕事を中心に、企画展の構成などを行っています。今後の目標は、市民の皆さんが自分の地域の歴史を知りたいと思ったときにいろいろな情報を提供し、情報をお互いに楽しみあうことができる場を作ること。そのためには、基礎となる歴史資料や民俗資料の収集と調査、また詳しい知識がある人たちとのつながりをつくっていくことが必要だと思っています。



財団法人新潟市芸術文化振興財団  
学芸員

森 行人 さん  
人文学部1998年卒

てられた2代目の新潟市役所庁舎の外観デザインを再現して建てられたのが、新潟市歴史博物館本館です。そして、佐渡汽船の巨体が目の前で旋回するという、新潟市の湊の歴史を改めて体感できるロケーションもすばらしいものがあります。

### 新潟の歴史の魅力と みなとぴあの特徴

越後平野は二つの大河が貫いていて支流もたくさんあります。それらがみな、ここ新潟市で日本海に注ぎ込んでいます。大動脈と静脈、毛細血管のように、新潟市は隅から隅までが水路でつながっていたのです。河川を通過して穀倉地帯の米が新潟湊に届き、そこから大坂や江戸に運ばれていきました。新潟が日本の近世において流通の一大拠点となった所以です。このように新潟市の歴史と水は切り離せないため、「郷土の水と人々の歩み」がみなとぴあ常設展示室の根本にあるテーマになっています。

常設展示室はコンパクトではありますが、

実物資料と模型、映像を駆使し、展示方法にも工夫がされています。さらに、専門学芸員を中心に、考古学、民俗学、美術というトータルな新潟市の歴史文化を研究して情報を提供できるような体制をつくっています。常設展以外に多様な企画展を開催しているのも特徴の一つ。年4回の大きな企画展の間に収蔵品展などを開いて、寄贈していただいた資料を見ていただく機会を設けています。そのため、「訪れるたびに新しい発見がある」と何度も足を運んでくださる方も多いようです。

### 講座やボランティアなど 新大生も積極的に参加を

今年の夏の新潟市合併記念展『新潟の舟運—川がつなく越後平野の町・村—』(7月15日から9月3日まで)は、大学生にもおすすめの企画展です。新潟市における舟運の重要性、舟運が新潟市の発展にどのように影響を与えたのか理解していただける資料を展示します。目の前の船着場から水上

バスに乗って関係各地を訪ねる企画も考えています。

ほかにも企画展に合わせた講演会や、通年でやっているいろいろな講座も学生の皆さんに利用していただきたいものです。また、みなとぴあでは登録制のボランティア制度を設けています。常設展示室をガイドする常設ボランティア、屋外を案内する敷地ボランティア、それに体験プログラムのお手伝いをする体験ボランティアの三つです。学生ボランティアの方もいらっしゃいますので、皆さんもぜひ参加してください。

新潟大学の旭町キャンパスには旭町学術資料展示館がありますが、すばらしいことです。大学の教育は頭の中だけで行うものではないと、私は思います。旭町学術資料展示館とみなとぴあが補い合い、学生たちが物を見て自分の考えをちゃんとまとめていける学習の場として役立ちたいですね。新潟大学とみなとぴあが双方向に希望を出し、触発的に新しいものを目指していければと考えています。

### みなとぴあが目指すこと

新潟は金沢と並んで日本海側最大の都市として発展してきました。しかしその歴史は住んでいる私たち自身も知らないことが多いようです。北前船の湊としての繁栄は知られていますが、さらに奥深い面白い歴史があることをみなとぴあができて初めて市民の皆さんは認識できたのではないのでしょうか。そういう点で、みなとぴあは政令指定都市として発展していこうとする新潟市になくはない施設だと思います。

広域合併により蒲原平野の主要部分が集まりました。旧新潟市地域だけでは語り尽くされなかった、新潟の通史がひも解かれようとしています。常設展も新しい新潟市の地域像に近づけるように、段階的にリニューアルしていきたいと考えています。

みなとぴあは、まだまだ未完成かもしれません。でもそれだけに市民の皆さんとスタッフみんなで充実させていきたいものです。

### 新潟の文化を訪ねて DATA

#### みなとぴあ 新潟市歴史博物館

〒951-8013 新潟市柳島町2-10  
TEL 025-225-6111 FAX 025-225-6130  
URL <http://www.nchm.jp/index.html>

●開館時間  
(4月～9月) 9:30～18:00  
(10月～3月) 9:30～17:00

●休館日  
月曜日(その日が休日に当たる場合はその翌日)、休日の翌日(その日が土曜日または日曜日に当たる場合は火曜日)、年末年始(12/28～1/3)、くん蒸期間等

●常設展示観覧料  
大学・高校生(一般) 200円

●交通アクセス  
JR新潟駅万代口から  
新潟市観光循環バス(犬夜叉号)で15分  
「歴史博物館前」バス下車すぐ  
「昭和大橋・入船営業所」行バスで25分  
「歴史博物館前」バス下車すぐ

#### みなとぴあ おすすめ展覧会

平成18年度新潟市合併記念展  
新潟の舟運—川がつなく越後平野の町・村—

日時●7/15～9/3 9:30～18:00  
休館日●7/18・24・31 8/7・21・28

料金●大人(一般) 600円、  
大学・高校生(一般) 400円